

# SOMPO美術館

Sompo Museum of Art

No. 12-065-2020作成

新築  
美術館／飲食

|       |                  |              |               |             |              |  |
|-------|------------------|--------------|---------------|-------------|--------------|--|
| 発注者   | 損害保険ジャパン株式会社     | カテゴリー        |               |             |              |  |
| 設計・監理 | 大成建設株式会社一級建築士事務所 | A. 環境配慮デザイン  | B. 省エネ・省CO2技術 | C. 各種制度活用   | D. 評価技術／FB   |  |
| 施工    | 大成・清水・鴻池建設共同企業体  | E. リニューアル    | F. 長寿命化       | G. 建物基本性能確保 | H. 生産・施工との連携 |  |
|       |                  | I. 周辺・地域への配慮 | J. 生物多様性      | K. その他      |              |  |

## 街と接続する美術品としてのアートランドマーク

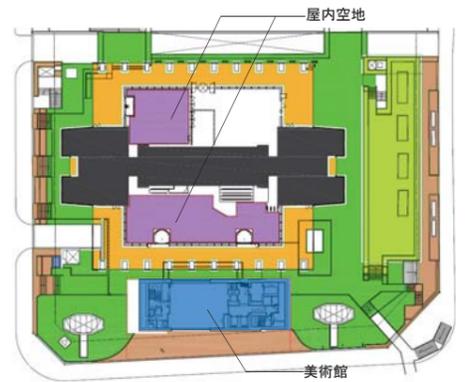


本社ビルを背景に佇む美術館

### にぎわい創出としての建築物

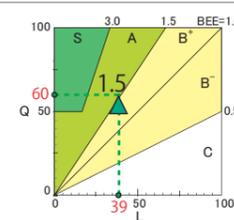
計画地である西新宿は昭和50年(1970)年代に立体的な都市基盤が計画的に整備され、高層ビル街を中心として商業・宿泊・居住など都市機能が集積し、これまで東京の成長を牽引する重要な拠点として大きな役割を果たしてきた。当該エリアでは、高層ビルの足元の賑わい欠如が議論となっており、エリアのまちづくりの方向性を記した『西新宿地区まちづくり指針』でも新たな賑わい創出が目標として謳われた。今回の計画では新たな足元の賑わい創出に向け、同敷地内に自立した美術館として実現するため、特定街区の都市計画で定められた壁面線の変更を行い、有効空地の一部を既存本社ビル内に付け替え、さらに連担建築物制度を用いる計画とした。

人々の記憶に残る特徴ある建物デザインがより地域を活性化し、都市景観に貢献することを目指し、街区における彫刻的な建築の佇まいとして計画した。



有効空地の整備方針

| 建物データ | 省エネルギー性能                    | CASBEE評価 |
|-------|-----------------------------|----------|
| 所在地   | PAL削減 48 %                  | Aランク     |
| 竣工年   | ERR (CASBEE準拠) 32 %         | BEE=1.5  |
| 敷地面積  | LCCO <sub>2</sub> 削減 0.95 % | 2016年度版  |
| 延床面積  | BPI 0.49                    | 第三者認証    |
| 構造    | BEI 0.90                    |          |
| 階数    |                             |          |



### 街と建物のつながりを構築

階段室や展示室といったゾーニングごとに分割し、そこに本社ビルや東郷青児作品の曲線を取り入れ、低層部にはゲート状に大きく開口部を設けることにより、外部との連続性を出し、開かれた美術館とした。

前庭は、歩道との段差をなくし、まとまった空間を確保して歩行者空間を拡充することにより都市空間の活動上のアメニティ向上を図った。また、ベンチや視線を遮らない植栽を配置することにより、にぎわい空間を創出しつつ防犯性にも配慮して、地域の憩いの場となるよう計画した。

### 彫刻的な建築表現を追求

12mmの鋼板を型枠として打ち込んだコンクリートを外壁としており、鋼板はそのまま外壁仕上面となるため、型枠廃材を出さず、環境に配慮した計画とするとともに、耐久性向上・長寿命化も同時に図った。

建物全体の大きな面には、化粧ビードを利用した縦ストライプを施すことで溶接部分を感じさせない外観を生み出し、一塊の彫刻のような美術館を目指した。

ゴッホの立体的なタッチを表現した縦ストライプにより、季節や時間で様々な陰影を見せる表情ある外観を作り出し、まちなみへの配慮も同時に行った。

低層部の外壁は、近景における圧迫感を軽減するため、周辺の風景が適度に映り込む仕上げとし、歩行者空間の形成に配慮した。

色調は本社ビルと調和する色相・明度・彩度を選択し、景観への配慮を行った。

### 更新性を高める木ルーバー天井を採用

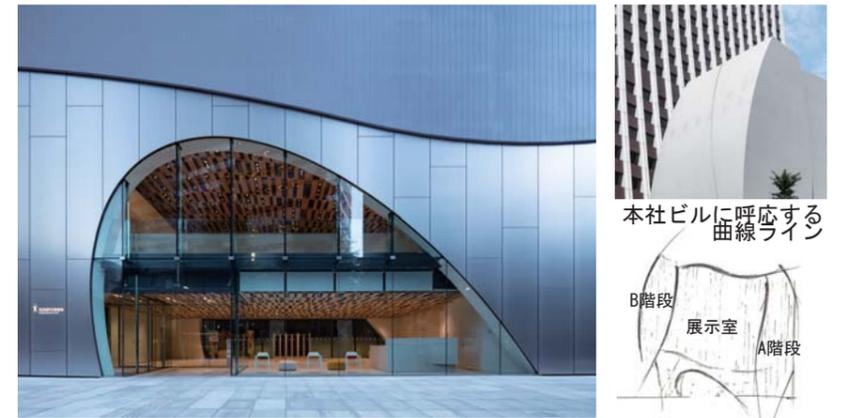
B1階～6階までの階高はそれぞれの階で4m以上とし、設備配管に必要なスペースの天井懐を十分とりつつも、天井高さも確保して、開放感がある空間にゆとりを持たせる配慮を行った。また、1・2階の天井をランダムな市松状にして、適正な隙間を確保することにより、仕上げ材を損傷することなく容易に電気配線等の設備を更新できる計画とした。

### 設計担当者

統括：久保勝彦／建築：川村信之、井深誠、中藤泰昭、内藤健吾、傳法一成、遠藤貴弘、遠藤太良、東宮英明、渡邊ゆたか、山下剛史、加瀬泰郎 / 構造：新田隆雄、青野英志、櫻井佑美 / 設備：竹内伸介、三宅英司、庄司朋子、鈴木拓也

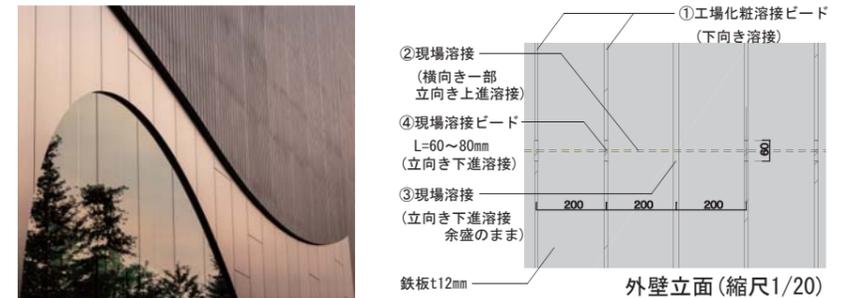
### 主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q2. 2. 耐用性・信頼性 (熱源種の分散化・二重化、非常用発電機・無停電電源設備の設置、受水槽・高架水層の分離設置)
- Q2. 3. 対応性・更新性 (ゆとりある天井高、電気配線等の更新性向上)
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮 (建物の形状・色彩等のまちなみへの調和)
- Q3. 3. 地域性・アメニティへの配慮 (空間提供による地域貢献、防犯性の配慮)
- LR1. 1. 建物外皮の熱負荷抑制 (鋼板+コンクリートの外壁)



街に開かれた大開口の低層部

コンセプトスケッチ

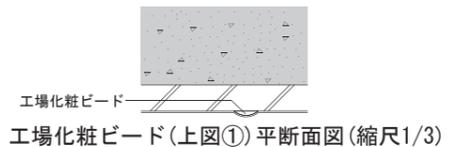


化粧ビードを施した縦ストライプ

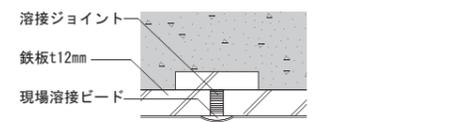
外壁立面 (縮尺1/20)



外壁鋼板パネル施工状況



工場化粧ビード (上図①) 断面図 (縮尺1/3)



現場溶接ビード (上図③) 断面図 (縮尺1/3)



ゆとりある天井高のカフェテリア



可変性の高い展示空間